

園芸産地の生産振興～新技術等の導入による野菜産地の維持確立～

ねらい

野菜の生産拡大に取り組んだ結果、ブロッコリーの栽培面積は増加したが、レタス、なす、いちご、ミニトマトは減少している。連作障害や病害虫被害の問題が生じてきており、これからますます深刻化することが予想される。

このため、輪作体系、連作障害対策等を検討し、IPM技術等を導入し実証しながら現場に普及させ、産地の持続的な生産安定を図るとともに、引き続き野菜増産に取り組む。

活動地域・対象

活動地域：阿波市、吉野川市

活動対象：①JAあわ市ブロッコリー部会生産者 ②阿波市レタス生産者 ③阿波市ミニトマト生産者 ④吉野川市、阿波市促成なす生産者 ⑤吉野川市、阿波市イチゴ生産者

普及活動の目標

- ①ブロッコリー ・出荷量 10%増加
- ②レタス ・栽培者の増加 15%増加
- ③ミニトマト ・新品種導入戸数 2戸、CO₂施用装置の使用状況調査 2戸
- ④促成なす ・土着天敵導入戸数 達成度60% 単為結果なす出荷数量10t以上/10a
- ⑤いちご ・最適な栽植密度の確立 導入農家 5戸、防虫ネット、UV反射シートの活用 4戸、天敵保護資材等を利用した防除体系の作成

目標に向けた活動概要

- ①ブロッコリー
黒すす病対策として、予防的な防除体系の推進と、根こぶ病発生ほ場の菌密度調査を行い対策を検討した。
- ②レタス
新規レタス栽培の推進、アブラナ科野菜との輪作体系の周知、減肥栽培の推進を図った。
- ③ミニトマト
裂果に強い品種の品種選定と試作を行った。また施設環境改善に役立てるため、施設内環境データの収集、活用を推進した。
- ④促成なす
土着天敵を活用した薬剤散布回数の減少とつやなし果を軽減するための展示ほを設置した。
- ⑤いちご
栽植密度見直しにより増収を図った。防虫ネット・UV反射シート導入による防除を推進した。天敵温存植物を導入することで防除効果を高めた。



ブロッコリー
ドローン防除



レタス
減肥栽培実証ほ



夏秋なす天敵導入の様子
(写真右端にゴマを植栽)



促成なすの講習会



トマト現地研修会



いちご栽培講習会

普及活動の成果

- ①ブロッコリー
 - ・黒すす病の体系防除は、産地に普及しており、令和4年度はほとんど発生がみられなかった。モデルほ場で土壌診断による根こぶ病発生リスクの把握・予防ができた。
- ②レタス
 - ・レタスの新規就農者1戸増加，減肥栽培に向けた実証ほの設置
- ③ミニトマト
 - ・裂果に強い品種の導入2戸 CO₂施用装置の使用状況調査2戸
- ④促成なす
 - ・土着天敵導入農家33%
- ⑤いちご
 - ・栽植密度見直し農家11戸，防虫ネット・UV反射シート導入農家4戸，天敵保護資材等導入農家4戸

用語説明 UV反射シート：紫外線を拡散反射することで，飛行錯乱を誘発し，ハウス内への侵入を防ぐことにより，アザミウマの発生抑制が期待できる。

今後の発展方向

- ①ブロッコリー
 - ・黒すす病の効果的な防除方法を引き続き検討する。
- ②レタス
 - ・減肥栽培技術の確立や減農薬栽培を推進する。
- ③ミニトマト
 - ・栽培環境に適した品種の導入，施設環境モニタ情報の活用を推進する。
- ④促成なす
 - ・土着天敵を生かした防除のメリットを説明し，導入農家の増加を図る。
- ⑤いちご
 - ・引き続き，天敵保護資材等を利用したハダニ類防除体系の活用推進を図る。
 - ・いちごの生理生態を再確認し，花芽検鏡を活用した定植・栽培管理を推進する。

関係者からの声

- ①ブロッコリー
 - ・黒すす病や根こぶ病の対策を行い，生産拡大していきたい。（生産者）
- ②レタス
 - ・エコ栽培技術を中心に持続可能な栽培方法として地域に拡大したい。（生産者）
- ③ミニトマト
 - ・CO₂施用技術のノウハウを蓄積して，収量改善していきたい。（生産者）
- ④促成なす
 - ・土着天敵の導入により防除回数が減少した。（生産者）
- ⑤いちご
 - ・栽植密度の見直しで栽培管理作業が減少し，品質が向上した。（生産者）
 - ・天敵保護資材を利用することで，天敵の定着が安定した。（生産者）

吉野川農業支援センター

連絡先：徳島県吉野川市川島町宮島736-1 TEL：0883-26-3971